

## 授業実践例 「今、大切にしたい権利－『子どもの権利条約』から選んでみよう」

主な目標	(1) 自分たちが生きていくうえで、必要な権利について理解する。 (2) 自分を大切に思い、他者とのつながりを大切にできる。 (3) 他者の思いに共感し、自分のこととしてとらえようとする姿勢を持つ。
------	---

学習活動・学習内容	教師の支援
(1) 「子どもの権利条約」がどのような条約であるかについて考える。 ○教育、保健、戦争・紛争等に係わる世界の子どもたちの状況について。 ○条約が子どもたちの未来を保障するためのおとなの約束事であること。 ○権利(条文)が大きく「生きる権利」「育つ権利」「守られる権利」「参加する権利」の4つに分けられること。	○条約の背景として、世界の子どもたちの状況を把握させたい。その際には、視聴覚教材や統計等を活用したい。また、識字について扱う「わたし かがやく」の教材「“差別はきっとなくせる”」の学習と関連させても良い。 ○世界の子どもたちの状況に対する捉え方が「かわいそう」「自分はそうでなくて良かった」等に止まらないよう取り組みたい。 ○権利(条文)を4つの権利に分類するなどの参加体験型学習を取り入れても良い。その際には、権利(条文)の精選や抄訳の平易化等、工夫したい。
(2) 「子どもの権利条約」の権利(条約)がどのような内容であるかについて考える。 〈「子どもの権利条約」ランキング〉 ①「子どもの権利条約」抄訳から、今の自分にとって大切だと思う権利(条文)を4つ選ぶ。 ②選んだ権利(条文)を1～4位までに順位づけする。 ③権利(条文)を選んだ理由、順位づけした理由を考える。	○ランキングについては、次の点を考慮しながら、十分に時間をかけたい。 ・子どもの生活実態や背景を十分に把握し、それらをふまえて取り組むこと。 ・権利(条文)の精選や抄訳の平易化、選択数の増減等、子どもの学習状況等に応じて工夫すること。 ・権利(条文)の内容に自分たちの生活や経験等を重ねて考えさせること。
④権利(条文)を選んだ理由、順位づけした理由について、グループやクラス等で話し合う。	○話し合いについては、次の点を考慮しながら、十分に時間をかけたい。 ・互いの思いや願いを認め合う雰囲気大切に、それらを共感的に受けとめさせること。 ・互いを理解し合い、支え合う意識の高揚等、「仲間づくり」「人間関係づくり」の取組に繋げること。
(3) 条約と日常の生活との係わりについて考える。 ○これまでの生き方や経験、目標や将来の夢等、自分自身のことについて。 ○家族や友だち等、他者との経験等について。 ○いじめや差別等、身近な人権課題の解決について。	○それぞれの生活課題と結びつけて考えさせるためにも、子どもの生活実態や背景を十分に把握したい。また、学級活動のあらゆる機会をとおして取組を進めたい。そして、これらのことで、この学習を身近な人権課題の解決に向けた取組に繋げたい。 ○「つづる」「語る」等の活動を効果的に取り入れたい。 ○自分たち一人ひとりが権利の主体であることを理解させたい。また、互いの権利を尊重し合うことの大切さにも気づかせたい。 ○「条約が子どもたちの未来を保障するためのおとなの約束事であること」をふまえ、これまでの子どもへの係わりを振り返ることを大切にしたい。また、学習のまとめとして、子どもたちの未来を保障するおとなとしての思いや願い等を語りたい。 ○授業展開例(別添)へと学習を発展させても良い。

(以上、4時間での取扱としての実践例)